



K140829JTA970(1460x2048)  
JUA016 JU682-1 (P)

①ウィーン公演で使う般若の面を持つ橋岡久太郎さん。面は豊臣秀吉が「天下」の称号を許した出目是閑吉満(でめぜかんよしみつ)の作。「貴重な文化財を惜しげもなく使うのが能の世界」と語る＝2014年7月、千葉県佐倉市の自宅

公演するのは能・狂言の役者と音曲の囃子方(はやしかた)や地謡など

。この演目は、能楽ならぬのが凝縮された作品の一つ。橋岡さんは「恋に狂う女性の嫉妬や情念は世界のどの国にも通じる普遍的なもの、非常に分かりやすい」と選んだ理由を語る。

本文化への関心が高く、芸術文化に目が肥えてい

るウィーン市民に最高のものを提供したい。公演を見て本物を知りたいと日本に行く人が増え、日本文化の理解と市民交流につながる。と話している。(時事)

能楽の代表的な流派の一つ、観世流の9世橋岡久太郎さんが団長を務める橋岡会が今秋、ウィーンで新能を舞う。同地で新能公演は初めてで、オーストリアの日本大使館が市民を巻き込む文化交流の拡大を狙って招いた。欧州では世界無形文化遺産第1号の一つに登録された能楽に対する関心は高く、日本の伝統芸術に「芸術の都」の市民がどう反応するか注目される。今回の新能は、昨年11月に橋岡会がウィーンで行った能楽公演がきっかけ。野田政権で官僚トップの官房副長官を務めた竹歳誠オーストリア大使が「草の根の文化交流を推進したい」と企画し、

市内にあるウィーン世界博物館で開催、会場は約2000人の観客で満杯となる盛況ぶりだった。△「葵上」で情念描く公演後、公邸を訪れた橋岡さんに竹歳大使が庭を案内しながら「こういう場所でお見せすることができたらどんなに素晴らしいか」と話すと、橋岡さんが「ぜひやりましょう」と応じた。これが実現への一歩となり、今年10月1日夕に再び日本大使館主催で公演することになった。薪能は本来、野外に設置された舞台の周囲に火をたいて演じられる。ただ、野外だと雨の心配や舞台設営の難しさがあるため、場所は昨年と同じ会場とし、かがり火はリアルに炎のイメージを再現できる電気照明を使うことにした。「今はテクノロジーのおかげで野外での幻想的な薪能の雰囲気と同等程度、再現できると思う」と橋岡さん

JTA970 JU68 . . . . . 101行



K140829JTA970(1980x1117)  
JUA016 JU682-2 (P)  
②昨年秋に行われたウィーンでの能楽公演＝2013年11月、オーストリア・ウィーン世界博物館(橋岡会提供)

【編注】「ニュースワード」＝「能楽」(JTA969)あります

【編注】  
「文化」||今秋、ウイ  
ンで初の薪能公演||関連

08年19号に正式登録された。無形文化遺産  
の狂言から成る。国連教  
育科学文化機関(ユネス  
コ)により2001年に  
無形遺産傑作宣言の第1  
号19件の一つに選ばれ、  
08年に世界無形文化遺産  
に正式登録された。(了)

©能楽  
「文化・ニュースワード」  
JTA969 JU681  
.....16行